

# 経済マンスリー

## [アジア]

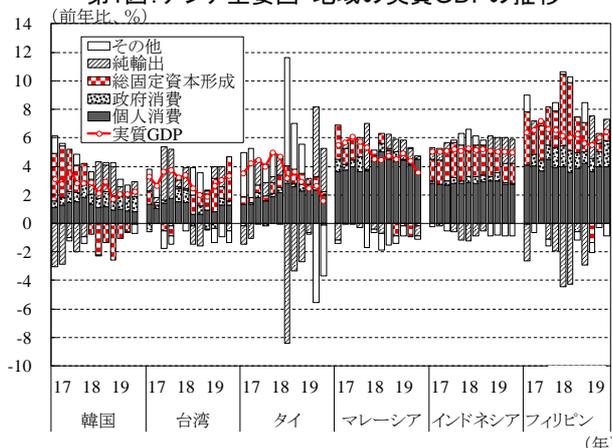
### 中国との経済的な結び付きが強く新型コロナウイルスの影響を大きく受けるタイ

ASEAN・NIEsの昨年10-12月の実質GDP成長率は、2月中旬までに全ての国・地域が出揃った。その内容を確認すると、ASEANではフィリピンが前期から加速したものの、その他の国は同水準または減速し、全体では前年比+4%半ばと減速した（第1図）。他方、NIEsは、香港こそデモ長期化により同▲2.9%と2期連続で大幅なマイナス成長に陥ったものの、韓国、台湾は成長率が更に加速し景況感の改善を改めて確認する格好となった。個人消費を中心として内需が堅調なことに加え、一部の国では、輸出が世界的な製造業持ち直しの動きと連動する形で底打ちの兆しがみられており、年初時点でアジア経済全体は総じて底堅く、先行きも景気持ち直しが期待できた状態だったと評価できる。但し、足元では、俄かに新型コロナウイルス感染拡大という予期せぬ事態に直面している。

アジア地域はもともと震源地の中国と地理的に近く経済的な結び付きも強いことから、中国経済の影響を受け易い。中でもタイはその傾向が強まっており、例えば同国の2019年の中国人観光客数は香港を除き域内最多の約1,100万人（同国の外国人観光客の約3割）で、これは重症急性呼吸器症候群（SARS）が流行した2003年比でみて約20倍の規模である（第2図）。SARS流行ピーク時には中国人観光客数が前年比約▲90%減少したが、今の母数の大きさや今回の状況（団体旅行の禁止、各航空会社による中国路線の運航停止・減便等）を踏まえると、インバウンド消費減少の景気下押し規模は嘗てより格段に深刻とみられる。また、タイの対中輸出額も相応の規模があり（ASEANではベトナム、マレーシアに次ぐ3番目）、中国の景気減速に伴う需要減少とサプライチェーン混乱を通じた影響が加わることを踏まえれば、一時的であるにせよ、景気が急減速する可能性がある。

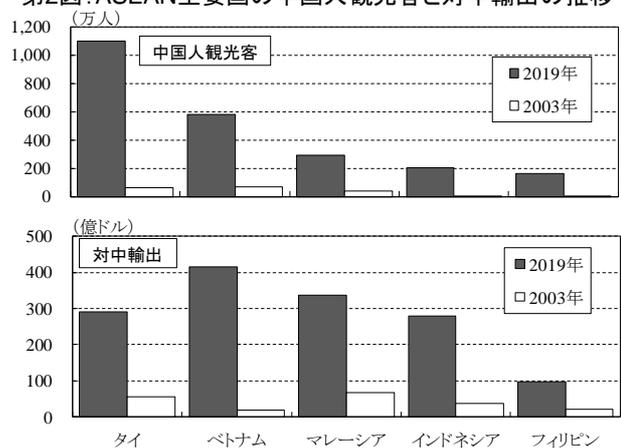
タイは周辺国に比べ潜在成長率が低く、加えて足元国内では早魃や今年度予算案を巡り混乱が生じる等、突発的なショックを吸収する力が乏しいところに、よりによって新型コロナウイルスの影響がGDPに占める割合の比較的高い観光業や輸出を直撃した格好である。逆風下のタイ経済に一段と強い逆風が加わるわけで、その持続期間も含め注視が必要である。

第1図：アジア主要国・地域の実質GDPの推移



(資料) 各国統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

第2図：ASEAN主要国の中国人観光客と対中輸出の推移



(資料) 各国統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

照会先：三菱 UFJ 銀行 経済調査室 高瀬 将平 shiyouhei\_takase@mufg.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の販売や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願ひ申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当室はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。また、当資料全文は、弊行ホームページでもご覧いただけます。